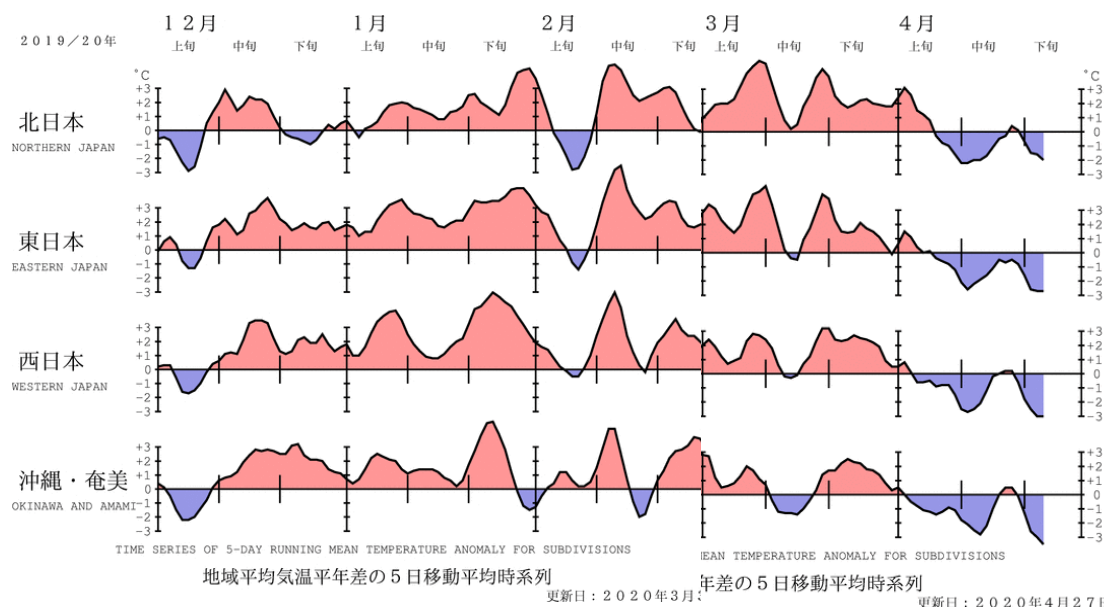


過去に例をみない暖冬の後、このまま暖かい春になるとの気象庁の長期予報が外れた。4月になって一転、寒波が南下したとのことで不順な天候が続き全国的に肌寒い春となってしまった。(下の5か月間の全国の気温経過図を参照下さい。)

このような気象の推移から今年のソメイヨシノの開花は異常なものとなってしまった。

- ・花芽の「休眠打破」が東海以西では遅れ、且つ打破に要する期間が長くなった。
- ・「休眠打破」は遅れたが、その後の気温（2月、3月）が高めに推移した為、相殺し開花日は殆どの地域で平年よりは早くなった。
- ・この為、休眠打破が正常であったと思われる、関東、東北、北陸の各観測地では、観測史上最早、または最早タイの開花日を記録した。(この地域では開花～満開までの期間も短かった。)
- ・一方東海以西の各地では、一部の地域を除いては、開花は平年より早くなったが、開花から満開までの期間がながくなった。(サクラだより26、全国のサクラ開花日と満開日のデータ参照)
- ・「休眠打破」の期間が長期になったこと、及び4月に入ってから冷え込みで花期が例年になく長くなった。(この付近では1ヶ月以上も花がみられた。)
- ・「サクラ」のパッと咲き潔く散るという日本の美学はどうなるでしょう。



今期は、異常な暖冬はとなる前の秋季の9月～11月も全国に気温は平年よりは高めに推移して来ていた。この為、サクラのみならず多くの動植物の生態に影響を与えました。

ご存じの様に、各地の気象台は一般の気象観測以外に、「生物季節観測」がなされて来ています。各地の植物や動物を定点観測し、桜の開花や桜の満開などの現象が発生した時期を記録することで、毎年の季節変化を調べています。(この各地の記録を集めて地図上に可視化したものが季節前線、「桜前線」などの動きから各地の季節変化の時期や期間などが把握できるようになっています。)なお過去の各気象台の観測記録は公開されていますし、リアルタイム情報は、@JMAXMLSeasonでも公開されています。

以下、上記の「生物季節観測」の今期の記録から代表的な植物の今年の開花の状況を開花の早かった10地点と大阪、京都、神戸の状況を掲載しておきます。

*ツバキ（ヤブツバキ）の開花

2020年度のツバキの開花日					
	開 花 日	場 所	平 年 比	昨 年 比	備 考
	2019年				
1	11月23日	福 井	87日	28日	* 黒字は早い
2	11月27日	富 山	94日	2日	* 赤字は遅い
3	12月 3日	鳥 取	53日	48日	
4	12月 6日	下 関	34日	26日	
5	12月12日	松 山	17日	7日	
6	12月15日	沖 縄	21日	4日	
7	12月23日	神 戸	65日	3日	
8		岡 山	18日	78日	
9	12月24日	南大東島	11日	4日	
10	12月27日	高 松	19日	17日	
	3月11日	大 阪	37日	74日	
	3月12日	奈 良	26日	7日	
	3月19日	京 都	2日	2日	

ツバキの開花が春先ではなく、晩秋に咲く現象は5年ほど前から観測され、本件に関しては科内の勉強会で「地球温暖化」が引き起こした現象としてお話しして来た。ツバキは冬芽をつくる植物ではなく秋の涼しさを感じて花芽の分化を始める。開花はその後の気温の経緯で決まり秋季の温度が高いと年内に開花、平年並み又は低ければ年越しして春先の開花となる。

上表の様に今期も年内に開花した観測地がでている。（上表以外で43観測地点のうち26地点で平年より早いという報告になっている。）従来、雪国とされてき、開花も遅かった日本海側の福井、富山、鳥取が上位を占める。この傾向は今年だけではなく、昨年度も富山、福井は年内に開花している。しかも平年比で示されているように、3ヶ月ほど早い開花となっている。これ等の地域は降雪が殆どなくなるなど近年気象状況が大きく変わって来ている為と考えられる。

南大東島は平年比より若干遅くなっているが、多分秋季の気温が高く花芽の分化が遅れた為と考えられる。同様な傾向は、表外でも南西諸島の宮古島平年比4日遅れ、石垣島31日遅れ、さらに熊本や鹿児島など九州南部の地域での開花遅れが記録されているが、これ等の地域も秋季の気温が高かったので、同様に理由に「花芽の分化遅れ」が影響したと考えられる。

一方、この附近では箕面や六甲山周辺ではヤブツバキは11月下旬に開花が見られており、少し遅いが神戸の開花は理解できるが、大阪の開花日は通常2月4日でありこれより1ヶ月以上も遅れたのは理解出来ないかも知れない。そこには、観測上の規定「開花とは：観察標準木で5，6輪が咲く」が影響しているのではないかとと思われる。ツバキは、ウメやサクラのように短期に一斉開花する樹木ではなく咲き始めて次々と長期にわたって花をつけては散って行く。特に、大阪の開花日については過去に「観測できず」の記載があったり、昨年度は「12月27日以前」という発表になっているなど、我々の実感とはずれている可能性がある。

*ウメ（白梅）の開花日

2020年度 各地の梅（白梅）の開花日					
	開 花 日	場 所	平年比	昨年比	備考
1	12月31日	松 山	*6日	*6日	*黒字は早い
2	1月 1日	高 松	19日	11日	
3	1月 4日	石垣島	7日	9日	
4	1月 6日	沖 縄	9日	19日	
5	1月 8日	宮 崎	14日	12日	
6	1月10日	静 岡	10日	2日	*赤字は遅い
7	1月14日	名古屋	19日	4日	
8		松 江	10日	1日	
9	1月19日	福 井	39日	1日	
9		奈 良	17日	5日	
9		高 知	6日	4日	
	1月24日	神 戸	21日	7日	
	2月2日	大 阪	8日	17日	
	2月13日	京 都	7日	11日	

上表以外では、45観測地点で平年より遅いと記録されたのは、3地点のみで他は全て平年より早い開花となっている。また、開花も一部の例外を除いてほぼ南から北への「梅花」前線が成立する。ウメは前出のヤブツバキと同じく、冬芽をつくるのではなく、秋の涼しさを感じて花芽を分化する。また、ウメは日本固有の樹木ではなく、7～8世紀ごろに中国から渡来したものである。中国南方、台湾など亜熱帯域まで分布する。どちらかと言えば南方系であり、南から北への花前線は自然態と言えよう。

例外的に開花が早くなっているのが福井であるが、表外では新潟が平年比41日、金沢が23日早い開花になるなど、ツバキと同様日本海側の地域の開花日が早くなって来ている。冬季の積雪量の減少、対馬暖流の北上など温暖化が影響して来ていると考えられる。

*タンポポの開花日

全国の39の地点で観察されているが、本年度平年より早いと報告されたのは30地点であった。近畿地区では大阪が徒出して早いと報告しているが、他はほぼ平年並み。南北等の関係は殆どない。

2020年度 タンポポの開花日					
	開 花 日	場 所	平 年 比	昨 年 比	備 考
	2019年				
1	11月20日	横 浜	44日	13日	*黒字は早い
	2020年				
2	1月21日	福 岡	41日	1日	*赤字は遅い
3		長 崎	32日	0	
4	1月23日	高 知	23日	8日	
5		大 阪	52日	29日	
6	1月29日	鳥 取	42日	17日	
7	2月4日	松 山	16日	40日	
8		名古屋	19日	23日	
9	2月9日	静 岡	5日	11日	
10	2月20日	松 江	12日	35日	
	2月27日	京 都	1日	16日	
	3月13日	奈 良	6日	8日	
	3月23日	神 戸	2日	0	

*スイセンの開花日

全国の27地点で観測されている。秋の涼しさを感じて花芽を分化するタイプの球根植物であれば、今期の気温の条件では開花は遅れても不思議ではないが。一部の例外を除き開花が早くなっている。ほぼ、暖地→寒冷地の傾向ではあるが、ここでも福井、新潟、(金沢)などの開花が平年に比べかなり早くきろくされている。しかも、昨年に続いてである。やはり、温暖化、降雪量の減少が影響して来ていると考えられる。

2020年度 スイセンの開花日					
	開花日	場所	平年比	昨年比	備考
2019年					
1	11月20日	佐賀	47日	31日	*黒字は早い
2	11月28日	徳島	12日	6日	
3	12月15日	奄美	1日	9日	
4	12月16日	福岡	13日	4日	
5	12月20日	福井	67日	1日	*赤字は遅い
6	12月21日	長崎	4日	2日	
7	12月23日	岡山	18日	4日	
8	12月24日	新潟	74日	12日	
2020年					
9	1月6日	静岡	20日	19日	
10	1月8日	名古屋	7日	27日	

*ノダフジの開花日

サクラ・サクラと言てるうちに季節は立ち止まることなく、気が付けば、ヒラドツツジやハナミズキ、フジの季節へと進んで来ていました。

ノダフジの開花は右のようにほぼ、南から北への傾向となってきましたが、表のあと4月の20日以降の開花を報じた観測地では平年よりは遅い開花日を報告している地域が多くなってきています。やはり4月に入ってから寒気の流れ込みが影響して来ているものと思われます。

2020年度 ノダフジの開花日					
	開花日	場所	平年比	昨年比	備考
1	3月11日	名瀬	21日	8日	黒字早い
2	4月1日	鹿児島	8日	8日	
3	4月3日	熊本	8日	4日	
4		宮崎	5日	4日	
5	4月5日	高知	6日	4日	
6	4月10日	広島	8日	5日	
7		長崎	7日	0	
8	4月14日	横浜	15日	8日	
9	4月15日	銚子	8日	4日	
10		岐阜	2日	4日	赤字遅い
		鳥取	8日	5日	
	4月20日	京都	1日	0	
	4月22日	大阪	5日	5日	



***最後に私の観察木の記録と現状です。**

観察対象に選んだソメイヨシノは、近くの小公園にある5本の樹のうちでは一番大きく、毎年附近では一番早く花をつける樹にしました。

- ・3月20日に1輪開花、21日の午前10時ほどが平開したので開花日としました。

(なお、附近および夙川公園のサクラも22、23日頃に開花しました。

- ・通常は開花すれば一気に花をふやして行くのですが、今年は25日では10%程度の開花、29日に3分咲き、30日に5分咲き、31日に8分咲き・・・4月1日を満開としました。

しかし、6日ごろまでは満開状態が続き、落花がめだつようになったのはそれ以降。

この後も新しく開花する花もあり、12日でも見かけ上は3割ぐらいの花が残っている状況。20日ごろでも枝の上部に花の残っており終息宣言には至りませんでした。

・次の2枚は今朝の写真です。上は上方の枝。これが散れば The End といえるのですが、手前の枝には花芽らしきもの残っています。多分こちらは休眠打破されなかった芽であろうと思っています。これだけであれば、良いのですが、下方の枝では下の写真のような事件が発生していました。どう見ても遅まきながら、冬芽が展開し開花したとしか考えられません。

観察木で花が終わったら、サクラの季節は終わり。この「サクラだより」も幕引きと考えて来ました。右のように今年の花はしぶとく残ってはいますが、Stay Home Week とやらに入りました。丁度一区切り、このたよりを持って幕引きとさせて頂きます。

長い間、勝手気ままな「たより」にお付き合い頂きありがとうございました。少しでもご参考になれば幸甚です。

紙面でなく、Face to Face でお目にかかれる日の早やからんことを念じて。 完

(近くのサクラ自選集も見てね。)

K. Kodama

